

## 2月27日（金） Royal Children Hospital

報告：知識美奈

Royal Children Hospital はブリズベンにある小児専門病院で、その掲げる目標は「The special purpose children's District provides a comprehensive set of health care services to children and young people 0-14 years across Queensland, Northern New South Wales, the nearby Pacific Islands, New Zealand and Japan.」というものです。

今回 RCH を案内してくださったのはジョン・ボード先生というとても素敵な先生で、現在は退職されていますが、RCH で33年間麻酔科医をしていらっしゃった先生であります。福島医大の麻酔科の先生も何人か、半年～1年単位で Queensland Health に研修に行かれたようで、ボード先生に大変お世話になったそうです。その麻酔科の先生が、今回の研修で小児病院の見学をさせていただけないかとボード先生に頼んでくださり、この RCH 見学が実現したのです。今回 RCH に見学に行ったのは、小児科希望の2名と、リハビリ希望の1名の合計3名です。

朝9時に RCH のロビーでジョン・ボード先生と待ち合わせ。私達が約束の5分前くらいに RCH につくとすでにボード先生は到着されていて、病院の外まででてきて、素敵な笑顔で出迎えてくださりました。

RCH のエントランスに入ると、いろんなスタッフの方たちが「Hey,John!!」と笑顔でボード先生に挨拶してこられました。ボード先生はこの病院の人気者のようです。病院の壁はどこもかしこもカラフルでいろいろな動物や、花の絵などが描かれていて、とにかく明るい印象でした。

最初に案内されたのは病院内の学校でした。小学部と中学部とあって、遊具や本などが豊富にとり揃えてありました。

ベッド上安静の子には移動図書のような形でワゴンに本を載せて、ベッドサイドまで運ぶそうです。

ICU にはペアレンツルームが用意されていて、ソファと電子レンジ、冷蔵庫、コーヒーメーカーなどが置いてありました。

付き添いの家族がほっと一息つける空間のようです。

中庭にはカラフルな遊具が備えてあり、状態の落ち着いたいる子や、お見舞いに来た兄弟が遊べる空間になっていました。

ボード先生はどこでも顔パスだったので、私達はオペ室にまで入らせていただけることができました。オペ着に着替え、帽子をかぶり、スリッパカバーもつけていざオペ室へ。中は広々としていて、動きやすそうなオペ室でした。挿管する場面にも遭遇しました。また、吸入麻酔で導入後、麻酔科医が点滴ラインを確保するとき、看護師がバグバルブマスクで換気していたことにはみ



【カラフルなドア】

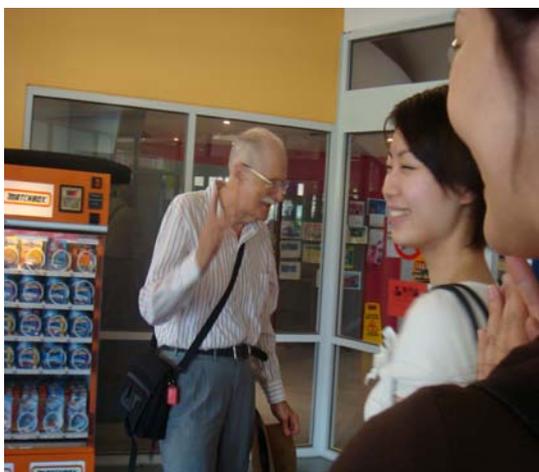


【中庭の様子】

んな驚きでした。オペ室の休憩室でボード先生がいてくださったコーヒーをいただき、休憩をとりました。

その後 ER を見学しました。受付にはトリアージナースがいて状態をみて、緊急度を判断します。RCH は公立の病院で診療費は無料なので、混雑しているときは相当待つことになるようです。私達が見学した日はかなり平和な日で、ER にはほとんど患者さんがいませんでしたが、混むときは戦場のようなのだそうです。

今回ボード先生のご好意でオーストラリアの小児専門病院を見学させていただくことができ、本当に嬉しく思います。小児科を目指す自分にとって、日本とは違ったスタイルの小児病院を直に見てこられたというのはとても貴重な体験だったと思います。参考にしたいと思う部分がたくさんあり、これから先の日本の医療に活かしていきたいと感じました。



【出迎えてくださったボード先生】



【様々な遊具】



【オペ室内の見学】



【病室】